

第2学年「国語」学習指導案

授業者 大村 幸子

2月15日(土) 2階D室 9:00~9:40

1 単元名 やくわりを考えよう - 「ロボット」をもとに-

2 単元について

・他者と対話する

本学級では、サークルに集まり、他者の声に耳を傾け、考えを深める時間をもつ。4月当初は、話し手が出した話題内の事柄についての質問が多かったが、2学期後半には、話し手の思いや考えを問う質問が増えてきた。話題内に入り込んでしまうのではなく、出された話題を俯瞰的にみて、話し手と自分の考えを比べたり、話し手の意図を考えたりする姿が少しずつ見られるようになってきている。そこで、本単元では、教材文「ロボット」を読んで考えたことや、「ロボットのやくわり」について考えたことをもとに、他者と対話し、考えや学びを深めていく時間をとることとした。教材文「ロボット」の読みやこれまでの経験をもとに話をする中で、ロボットと人間のそれぞれの役割を考えたり、あるいは、自分自身の存在意義や人として生きることについて、小学校2年生なりに考えたりするのではないかと期待する。

・実生活や経験をもとにことばを紡ぐ

子どもたちは、4月「たんぼのちえ」、9月「どうぶつ園のじゅうい」、11月「紙コップ花火の作り方」を読んできた。身近なものやことが書かれているので、比較的理解しやすい内容であった。一方、本教材文「ロボット」は、機械工学の第一人者である佐藤知正氏による「人とロボットの共存」をテーマにした文章である。子どもたちの生活と離れたことばで、身近とは言い難い「ロボット」についての説明がされている。ことばを読み飛ばしたり、表面的な理解ですませたりするのではなく、イメージと結び付け、自分なりに理解し、自分の考えをもつことをめざしたい。子どもたちにとって新たな挑戦である。

そこで、ネコロボットを見に行ったり、お掃除ロボットに触れたり、ロボットの専門家に話を聞いたりする時間をとることとした。実際に経験したことをもとにことばを交わすことで、より深い理解や思考が得られるのではないかと考える。そうして得たことばをもとに、「やくわりを考える」という抽象的なテーマに対する自分のことばを紡いでほしいと考える。

・学びを自覚する

本時では、サークルで分かち合った後に、学びを振り返り、ノートにまとめる時間を設定する。サークルでは、「やくわり」についての様々な考えが出てくるであろう。他者との対話を経て、自分の考えはどのように深まったのか、あるいは、自分のことばはどのように磨かれたのか、考えさせたい。

3 学習指導計画(5時間目/全9時間)

第1次 学習材と出合い、大きな問いを考え、単元を立ち上げる……………1時間

第2次・説明文「ロボット」を読む……………6時間

・問いをもとに読む……………前時5/9時間

・問いをもとに他者と対話する……………本時6/9時間

第3次 自分の考えをまとめる……………2時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

・「ロボット」を読み、自分なりの感想をまとめ、友達と共有することができる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 本時のめあてを確認する。 2. 「やくわり」について、サークルで話し合う。 3. 自分の学びをノートにまとめる。	・自分の考えをもち、サークルでの話し合いに参加できるようにする。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

どのようなことばの学びを自覚するか、それは他者とのどのような関わりにより触発されたか。